

那珂川町図書館

オススメの1冊

『いつも日本語で悩んでいます』

朝日新聞校閲センター／著 さくら舎 【810.4 ア4】

同じことばであっても、地域や年齢、微妙なイントネーションの違いで全く意味の異なることばになってしまうことがある。そうした日本語の表現の難しさに悩まされる人は、おそらく少なくないだろう。この本は、朝日新聞社の校閲センター員が読者から寄せられた「ことば」に関する数々の疑問にお答えする朝日新聞朝刊のコラム、「ことばの広場 - 校閲センターから」の記事（2015年4月8日～2017年12月6日掲載分）をまとめたものである。

たとえば「ほっこり」という言葉、みなさんはどのような意味で使われるだろうか。この本で紹介されているエピソードのなかに、こんな話がある。福井県南部の病院でスタッフの一人が、「今日は、ほっこりした」ということばを患者から聞いた。そのスタッフは、「ほっこり」という言葉を苦痛や気分が「和らいだ」という意味で解釈し、「よかったですね」と声をかけたところ、患者は首をかしげるばかりだったという。実は、その地域では「ほっこり」ということばは「疲れる」という意味を表していたとのこと。その患者は「今日は疲れた」という意味で「ほっこりした」と言ったようだ。こういった地域や世代によって意味の違ってくることばに関しては、文脈や表情から意味を読み取る必要があると述べられている。

また、ことばは時代とともに変化するものである。たとえば、本来否定的な意味で使われていたことばが、肯定的な意味で使われるようになるなど。この本には、最近の「やばい」に関して読者から戸惑う声が寄せられたとのこと、元々の意味やどのように変化していったのか、今の若者はどういった意味で使うことが多いのかなどが書かれた記事も収録されている。「やばい」のように、本来の意味とは違う使い方をされていることばであっても、世間に広く浸透していくにつれそのことばの持つ意味が変わってしまうこともある。

使う人によって意味が異なることもある「ことば」。相手のことばの意味を取り違えないよう、日本語感覚を磨いていきたい。

那珂川町図書館（浅葱）